

三重県アセアンビジネスサポートデスク現地レポート

平成27年5月25日

三重県アセアンビジネスサポートデスク

株式会社野村総合研究所（NRI）

[タイ] 裾野産業展示会を開催

裾野産業展示会「サブコン・タイランド」が5月13日～16日の4日間、バンコク市内で開催された。サブコン・タイランドは、タイ政府投資委員会（BOI）とタイ下請振興協会、民間のイベント運営会社が毎年5月半ばに共催する、アセアンで最大規模の展示会である。今年は約300社・団体が出展し、期間中の来場者数は約2万人に達した（主催者発表）。商談件数は約4,000件、成約額は約70億バーツ（約250億円）に達する（主催者見込み）。

タイで操業する日系企業はもちろん、タイでの販路や取引先を求める日本の製造業も多く出展した。後者のためには「ジャパン・ゾーン」が設けられ、地方自治体の産業振興団体や地元企業がまとまって出展できるようになっている。今年は、神奈川県や島根県の同団体、企業が20社ほど出展し、自社製品や技術を売り込んだ。

[タイ] 国境付近の商業開発

タイの経済成長が鈍化する一方で、隣国であるカンボジアやラオスはアセアン域内でも高成長を続けている国である。これにともない、カンボジアやラオス人の所得、ひいては購買力も向上している。同時に、今年末より本格的に始動するアセアン経済共同体（AEC）に向けて、国境間を結ぶ橋や道路などインフラ整備が進んでいる。これにより、タイとカンボジア、タイとラオスの間での人の行き来がしやすくなっている。

従来から、カンボジアやラオスの富裕層はタイで病院に行ったり、タイで高級品を購入したりしてきた。近年、これに加えて、カンボジアやラオスの中間所得層が、タイのショッピングセンターやスーパーマーケットに日用品を買いに来るようになっている。タイの方が、消費財の種類が多く、品質が良く、そして大量生産のため価格も安いことが、その背景となっている。

これを受けて、例えばタイのスーパーマーケットである「テスコ・ロータス」は、チェンライ県チェンコン（ラオス国境付近）やスリン県（カンボジア国境付近）など、周辺国の中間層が買い物に来やすい立地での商業開発を進めている。